岩手の生涯学習物語（実践期編）

第九話　「生涯教育情報分類表」の巻

元岩手県教育委員会事務局社会教育課長　　高　橋　　寛

「生涯教育推進事業」に県民の生涯学習推進のための「生涯教育データバンク・情報提供」があります。その中で情報の分類が話題となりました。今回はそのお話です。

昭和 47 年度から 3 年間取り組まれた生涯教育推進事業」は「生涯教育推進会議」、「生涯教育データバンク」、そして「広域事業」の三つで構成され、その一つの「生涯教育データバンク」は県内の教育資源を調査し「**生涯学習ガイド**」として編集され県民に提供されました。

昭和 57 年度に「施設編」「団体編」、58 年度には「指導者編」「学習プログラム編」、59 年度には「情報源」「教材編」として取りまとめられ、その後の岩手の生涯教育情報提供事業の基礎となりました。この事業推進の中でその後の情報提供に関わるとても大切な二つの発見があったのです。

左が「施設編」、右が「団体編」

情報源こそ

その一つは情報源の有効性です。私達は日常生活において「そのことはあの人に聞けばいい」とか、「あそこに相談すればいい」と言うことがしばしばあります。ある種の情報を総合的に持っているところ、即ち「情報源」です。これが生涯学習推進に大きく機能することを知り、その情報提供の大切さに気づきその情報提供を進めたことです。

どうしても必要な分類表

第二は図書に分類表があるように、生涯教育情報にも分類表が必要との発見です。分類表があることで情報は体系化される。そんなわけで「生涯教育情報に関する研究委員会」を設置し研究を重ね発表したのが下表の「生涯教育情報分類表」なのです。

この分類は「**0 総合情報、1 施設、2 学習機会、3 指導者、4 団体、5 教材、6 見学（先進地）、7 資料、8 援助体制、9 情報源**」の 10 項目の大分類を、項目毎に中分類、さらに小分類、そして要目（項目内容の説明）としたもので、最終的には生涯教育情報を 1 万項目に分類したものです。

岩手が全国初

後で知ったことですが、この分類表は全国で初めてのものでした。昭和 64 年度に文部省が「生涯教育情報分類表」を発表したことで知ったのです。しかも、なんとその分類表は私達が開発した分類表 10 分類を 8 分類としたものと言っていいほど良く似ていいました。しかし、「この分類は岩手の分類表を参考にしたものである」という主旨の記述がどこにも見当たらなかったのは不思議です。

生　涯　教　育　情　報　分　類　表　（部分）

大　分　類　3　　指　導　者

大分類	中分類 コード	中分類	小分類 コード	小分類	要目
3 指導者	30	生涯教育	300	生涯教育一般	生涯教育論，生きがい人正論，学校開放，セミナー等
			301	乳幼児教育	幼児教育一般，保育，遊戯，絵本，保育園，幼稚園等
			302	青少年教育	青少年教育一般，団体活動，青年学級，子ども会等
			303	婦人教育	婦人教育一般，団体活動，婦人学級等
			304	成人教育	成人教育一般，団体活動，公民教育，学級・講座，成人大学等
			305	高齢者教育	高齢者教育一般，団体活動，人材銀行，高齢者大学，等
			306	教育	学校教育（定時制高校，大学，専門学校，職業訓練学校）社会教育，家庭教育，教育制度心理・教育技術等
			307	教育方法	教育方法一般，視聴覚教育，放送教育，通信教育，読書等
			308	教育施設	公民館，図書館，博物館，記念館，児童館，青少年の家，スポーツ施設，老人施設，保健施設，情報センター，ユースホステル，カルチャーセンター等
			309	その他	